

# 公益財団法人京都市国際交流協会

## 第1 法人の概要

### 1 代表者

理事長 千玄室

### 2 所在地

京都市左京区粟田口鳥居町2番地の1

### 3 電話番号

075-752-3010

### 4 ホームページアドレス

<https://www.kcif.or.jp/>

### 5 設立年月日

平成元年1月18日

### 6 基本財産

100,000千円（うち本市出えん額 100,000千円、出えん率 100.0%）

### 7 事業目的

京都において、歴史、文化その他の地域特性を生かした国際交流活動を推進することにより、市民レベルの相互理解と友好親善を深め、京都の国際化に寄与すること。

### 8 業務内容

- (1) 国際交流を推進するための事業
- (2) 多文化共生社会を推進するための事業
- (3) 地域の国際交流団体の活動の振興
- (4) 留学生の支援
- (5) 姉妹都市交流の促進
- (6) 京都市国際交流会館の管理運営受託
- (7) その他協会の目的を達成するために必要な事業

### 9 所管部局

総合企画局国際交流・共生推進室（TEL075-222-3072）

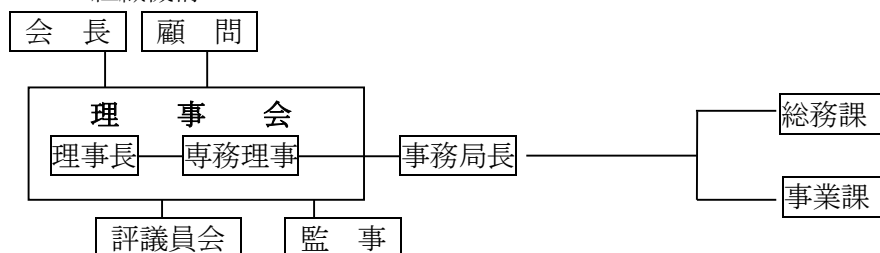
### 10 役員名等

- (1) 理事長  
千玄室
- (2) 専務理事  
林建志
- (3) 理事  
有田典代、小川伸彦、陳萍、高田光治、浜田麻里、西松卓哉（総合企画局国際交流・共生推進室長）
- (4) 監事  
中村健児、板原征輝（総合企画局総合政策室長）

### 11 職員数

常勤職員数 18名

### 12 組織機構



第2 目標及び実績

1 業務面

(1) 目標及び実績

目標1 「外国籍市民等が安心して暮らせる環境整備」	
令和5年度の目標	<p>外国籍市民等を対象にした相談事業の実施を通して、外国籍市民等が地域の一人として京都市で生活し、社会に参加するための環境整備の充実を図る。</p> <p>また、外国籍市民等へ国際交流会館のサービスなどを紹介するチラシを区役所において転入者に配布等することにより、外国籍市民等への情報発信を強化する。</p> <p>外国籍市民等の生活課題はより広範囲かつ深刻化するケースも増えており、電話通訳や相談対応の中で、速やかに必要なところにつなぐ必要があるため、公的機関との連携をより強化するとともに、情報提供や相談対応にあたり問題解決につなげる。</p>
令和5年度の取組結果(※)	
令和6年度の目標	<p>外国籍市民等を対象にした相談事業の実施を通して、外国籍市民等が地域の一人として京都市で生活し、社会に参加するための環境整備の充実を図る。</p> <p>また、外国籍市民等へ国際交流会館のサービスなどを紹介するチラシを区役所・支所において転入者に配布することにより、外国籍市民等への情報発信に注力する。</p> <p>外国籍市民等の生活課題はより広範囲かつ深刻化するケースも増えており、電話通訳や相談対応の中で、速やかに適切な窓口につなぐ必要があるため、区役所等公共機関と外国籍市民等をつなぐ通訳相談対応言語(令和5年度までは英語・中国語のみ)に、ベトナム語を追加するなど、公的機関との連携をより強化するとともに、情報提供や相談対応の充実を図り、問題解決につなげる。</p>

指標	「相談事業」の対応件数						(単位：件)	
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
	6,000	4,425	5,000	9,388	6,000		7,000	

指標	近畿地域国際化協会との「防災研究会」等の開催件数						(単位：件)	
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
	5	5	5	5	6		6	

目標2 「京都の国際交流拠点としての取組」	
令和5年度の目標	<p>姉妹都市については、京都市とケルン市が姉妹都市提携60周年を迎える年であることから、京都市が周年事業を実施するに当たり、当協会としても連携し、図書資料を含む既存資料の紹介等を通して引き続き市民への周知を図る。世界歴史都市連盟のPRについては、加盟都市を持つ国を紹介する絵本展等の開催を引き続き行う。</p> <p>また、ロシアによる軍事侵攻の影響を受け、京都市の姉妹都市であるキーウをはじめウクライナ各都市から避難された方々を温かく受け入れ、支援を行うため、京都市や企業、関係団体等と連携し、継続して取組を進める。</p>
令和5年度 の取組結果 (※)	
令和6年度の目標	<p>令和6年度は、京都市と西安市が友好都市提携50周年を迎える年であり、また、第19回世界歴史都市会議がスロベニアのリュブリャナ市で開催される。</p> <p>そのため、京都市が周年事業等を実施するに当たり、当協会としても連携し、図書資料を含む既存資料の紹介やSNSなどによる情報発信等を通して引き続き市民への周知を図る。また、姉妹都市コーナー・展示室における共催展示などを通じてPRを図る。</p> <p>また、ロシアによる軍事侵攻の影響を受け、京都市の姉妹都市であるキーウをはじめウクライナ各都市から避難された方々を温かく受け入れ、支援を行うため、京都市や企業、関係団体等と連携し、継続して取組を進める。</p>

指標	姉妹都市関連事業や世界歴史都市連盟のPR活動の実施回数						(単位：回)	
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
	5	5	5	5	5		6	

目標3 「国際交流や多文化共生に携わる市民や民間団体の育成・支援」	
令和5年度の目標	<p>コロナ禍で多くの制限はあるが、ボランティア活動を維持継続し、「ボランティアオリエンテーション」にて新たな人材を募集するとともに、研修を実施し、担い手育成につなげる。コロナ禍において新たに取り組んだ、オンラインを活用した事業やボランティアミーティングを継続して実施する。また、費用対効果などを考慮し、紙媒体による情報発信の見直しなどを行う。</p> <p>また、企業等とのコラボレーション事業については、社会状況等の変化により継続してきたイベントの実施が難しくなっているが、引き続き共催事業者を募集し実施していく。</p>
令和5年度 の取組結果 (※)	

令和6年度の目標	<p>国際交流や多文化共生に携わる市民や民間団体を育成するため、ボランティア活動への参加を周知する「ボランティアオリエンテーション」で新たな人材を募集するとともに、研修を実施し、担い手育成につなげる。また、費用対効果などを考慮し、紙媒体による情報発信を刷新し、外国籍の方のアイデアを元にした生活情報のWEB発信等を行う。</p> <p>また、企業等とのコラボレーション事業については、来館者増のみならず、市民の国際交流・多文化共生への意識向上に有益な取組であるが、他の貸施設との競合や社会状況等の変化により、継続してきたイベントの実施が難しくなっている。引き続き国際交流会館の魅力発信を強化し、既存の共催事業者を引き留めながら、新たな共催事業者の開拓にも努めていく。</p>
----------	---

指標	登録ボランティア主催イベント開催回数						(単位：回)	
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
	1,800	2,268	1,800	2,329	1,800		2,400	

指標	企業等とのコラボレーション事業開催件数						(単位：件)	
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
	7	2	6	6	6		7	

(2) 事業実績（令和4年度）

ア 市民への情報提供、相談事業

- (ア) 情報サービス関連
- (イ) kokoPlaza（図書・資料室）の運営
- (ウ) 相談関連（「京都市外国籍市民総合相談窓口」、「新型コロナウイルスに関する情報発信」等）

イ 国際交流団体等との連携事業

- (ア) 京都国際交流団体情報ネットワーク（kokoka 国際交流団体ねっと）
- (イ) 企業等コラボ事業
- (ウ) 「国際交流活動応援企業・団体」登録制度
- (エ) ウクライナ・キーウ（キエフ）支援事業
- (オ) 名義後援等による国際交流団体活動の支援

ウ 共生社会を促進していくための担い手育成事業

- (ア) ボランティア活動育成事業
- (イ) 国際交流市民活動グループ育成支援事業「COSMOS」
- (ウ) インターン受入事業
- (エ) 社会見学受入事業
- (オ) 京都光華女子大学講師派遣
- (カ) 日本語学習支援者育成研修

エ 異文化理解・多文化共生社会への促進事業

- (ア) 異文化理解を促進するための交流活動
- (イ) 多文化共生社会へのまちづくり

オ 留学生との協働、留学生への支援、留学生との交流事業

- (ア) 留学生スタディ京都ネットワークへの参画

- (イ) 張鳳俊奨学基金奨学金支給事業
- (ウ) 留学生のための就職支援事業
- (エ) 留学生受入環境整備事業
- (オ) 外国人歓迎会（春 新型コロナウイルス感染予防のため中止。秋 実施）
- カ 広報・出版・広告事業
  - (ア) 年報『Annual Report』、催物案内『イベントカレンダー』及び『LIFE IN KYOTO』の発行
  - (イ) 『kokoka 子育て応援 BOOK』の配布
  - (ウ) kokoka 京都市国際交流会館サービス案内冊子『あなたのくらしをサポートします』配布
  - (エ) インターネットによる情報受発信事業
  - (オ) SNS による情報受発信事業
  - (カ) 広告関係
- キ 姉妹都市コーナー・展示室の運営及び姉妹都市関連事業
  - (ア) 姉妹都市コーナー・展示室の運営
- ク 京都市国際交流会館の運営
  - (ア) 貸施設関係
  - (イ) kokoka 舞台芸術活動応援事業（グランドピアノ体験イベント）
  - (ウ) 京都市国際交流会館屋外使用・館内ロビー等使用
  - (エ) 団体事務室の入居団体との連携
  - (オ) 京都岡崎魅力づくり推進協議会への参画
- ケ 理事会等の開催

## 2 財務面

### (1) 目標及び実績

目標 1 「持続可能な経営に向けた健全な財政運営」	
令和5年度の目標	令和5年度からの利用料金改定に伴う指定管理料の減額など、厳しい状況の中、近畿地域国際化協会連絡協議会や文化庁、日本財団の補助金を申請し収入確保のための努力を続けるとともに、利用者の利便性向上のため令和4年度から新たに導入した「貸館のオンライン予約受付」の周知拡大を行うなど、増収策を講じる。 さらに、上記のような自主財源確保に加え、必要経費の見直しを図り、歳入歳出の両面から健全な財政運営に努めていく。
令和5年度 の取組結果 (※)	
令和6年度の目標	令和5年度からの利用料金改定に伴う指定管理料の減額など、厳しい状況の中、近畿地域国際化協会連絡協議会や文化庁、日本財団の補助金を申請し収入確保のための努力を続けるとともに、利用者の利便性向上のため令和4年度から新たに導入した「貸館のオンライン予約受付」の周知・利用拡大を図り、増収策を講じる。 さらに、上記のような自主財源確保に加え、必要経費の見直しを図り、歳入歳出の両面から健全な財政運営に努めていく。

指標	補助金の確保						(単位：千円)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
目標と 実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
		23,377	34,230	10,000	15,222	13,000		14,000

指標	施設の貸出による利用料金収入						(単位：千円)	
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
			34,230		38,209	43,000		47,000

目標2 「更なる寄付金の獲得」	
令和5年度の目標	「国際交流活動応援企業・団体」登録制度の継続と寄付金のクレジット決済ができることや税額控除対象団体であることをWebでPRし、増収につながるように努める。府民税・市民税控除団体であることもPRし、個人からの更なる寄付につなげる。オープンデイ等大きなイベントへの寄付の呼びかけや寄付月間等を実施し寄付対象者を広げるためのキャンペーンを行う。
令和5年度の取組結果(※)	
令和6年度の目標	「国際交流活動応援企業・団体」登録制度を企業・団体のみならず市民へも周知を図り、新規登録企業・団体の獲得に努める。寄付金のクレジット決済ができることや税額控除対象団体であることをPRし、個人からの更なる寄付につなげる。オープンデイ等大きなイベントへの寄付の呼びかけや寄付月間等を実施し寄付対象者を広げるためのキャンペーンを行う。

指標	寄附金の確保						(単位：千円)	
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
		3,255	2,932	3,150	3,374	3,300		3,300

主要財務数値									(単位：千円)
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
	予算	実績	予算	実績	予算	実績(※)	予算	実績(※)	
経常収益	284,619	279,335	262,740	303,902	272,712		280,626		
経常費用	312,603	286,264	283,964	293,173	293,670		318,604		
当期経常増減額	△27,984	△6,929	△21,224	10,729	△20,958		△37,978		
当期正味財産増減額	△28,064	△6,999	△21,304	10,659	△21,038		△38,058		
資産合計	-	367,469	-	389,443	-		-		
負債合計	-	125,772	-	137,086	-		-		
正味財産	-	241,697	-	252,356	-		-		
うち累積損益額	-	141,697	-	152,356	-		-		

(参考) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		R3 決算	R4 決算	R5 決算 (※)	R6 予算
委託料	京都市国際交流会館の管理運営 〔指定管理（公募、利用料金制）〕	192,486	192,486		178,693
	行政通訳・相談事業	4,865	4,865		9,165
	多言語情報発信サポート事業	377	253		-
	乳幼児健診等への通訳派遣	1,483	1,180		1,560
	留学生受入環境整備事業 (優待プログラム、ウェルカム・パッケージ)	2,260	2,950		2,950
	ウクライナ・キーウ京都受入ネ ット事務局の運営支援事業	-	5,223		1,850
補助金	京都市外国人留学生国民健康保 険料補助事業	11,724	-		-
交付金	京都市外国籍市民総合相談窓口 の整備及び運営	376	205		-
その他	京都市国際交流会館の利用キャン セルに伴う利用料の還付	2,409	-		-
	平和祈念事業	-	-		50

## 3 組織面

## (1) 目標及び実績

目標 1 「職員の能力向上」	
令和5年度の 目標	新たに採用した職員に対し、外郭団体職員としての能力向上のために、京都市が 開催する職員研修や、JIAM研修、民間が実施するZOOMセミナー等に積極的に参加 する。限られた人数による効率的な運営を目指して、有料無料を問わず職員の研修 派遣回数を増やし、職員の能力向上を図る。
令和5年度 の取組結果 (※)	
令和6年度 の目標	新たに採用した職員に対し、外郭団体職員としての能力向上のために、京都市が 開催する職員研修や、JIAM研修、商工会議所等が開催する研修に参加する。また、 限られた人数による効率的な運営を目指して、ZOOMセミナー等に積極的に参加し、 法律や制度に関する知識を深め職員の能力向上を図る。

指標	職員研修派遣回数						(単位：回)	
目標と 実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
	31	25	28	28	29		30	

目標 2 「職員の意識向上」	
令和5年度 の目標	職員間で、コンプライアンス、貸館増収、広報強化について勉強会を開催する。
令和5年度 の取組結果 (※)	

令和6年度の目標	職員間で、活発な意見交換や提案ができる職場環境の構築を目指し、心理的安全性、コンプライアンスならびに広報等について学ぶ勉強会を開催する。
----------	--

指標	勉強会の実施回数						(単位：回)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
	3	2	3	2	3		3	

### 第3 令和5年度の経営評価（令和4年度の経営状況に対する評価）

#### 1 所管局による評価

財務面	<p>財務面では、文化庁、経済産業省、厚生労働省等からの助成金や、ウクライナ避難者の受入支援のための日本財団の補助金等の社会情勢を反映した外部資金の確保に柔軟に対応している点に加え、従来の「国際交流活動応援企業・団体登録制度」による寄付金の確保も確実に取り組んでいる点は評価できる。</p> <p>一方で、社会情勢の変化に伴う賃金や光熱水費といった固定費の増加が見込まれる中、今後も厳しい財務状況が想定されるため、事業規模と財務状況のバランスを考慮しつつ、既存事業のスクラップ&amp;ビルドなどを含めた見直しを検討し、経常費用の削減に努めるなど、歳入歳出の両面から安定的な経営の確立に取り組んでいただきたい。</p> <p>施設の貸出において、新たにオンライン予約を開始するなど、利用者の利便性を高め、増収にもつながる改善策の実施は、高く評価できるものであるが、更なる収益事業の拡大、貸館施設の利用率向上に向け、利用状況の詳細な分析、広報の強化を行うなど、増収に繋げる一層の努力を求める。</p>
事業面	<p>事業面においては、ウィズコロナの状況下で、前年度に引き続き一定の活動の制限があった中でも、外国籍市民等への多言語による情報発信や相談事業、ボランティアの育成、kokoka オープンデイなど、国際交流・多文化共生を推進する取組を着実に実施されたことは評価できる。</p> <p>「ウクライナ・キーウ京都市民ぐるみ受入支援ネットワーク」においても、ウクライナ避難者の受入支援の中核として、避難された方のワンストップ窓口を設置し、きめ細やかな相談業務を実施されたほか、kokoka オープンデイにおいても、ウクライナ避難者によるパネル展等を開催し、避難者自身の活動や交流の場だけでなく、市民の避難者や姉妹都市キーウ市・ウクライナをより知ってもらう機会を提供した点は、高く評価できる。</p> <p>本市における外国籍市民の人口が初めて5万人を超え、今後も引き続き増加することが見込まれる中、実施している取組について、国際交流・多文化共生を着実に推進するよう、利用者のニーズや社会状況の変化を常に意識しながら改善を図っていただくとともに、取組自体の認知度を向上させるような広報面での工夫も積極的に取り組んでいただきたい。</p>



## 2 外郭団体総合調整会議による評価

令和4年度は協会の光熱水費が1.4倍に高騰する中においても、主要財務数値が前年度から好転し、黒字に転じた。また、多くの指標で目標を上回る実績となっており、協会の日々の国際交流や多文化共生の取組、収益確保等の取組について、評価できる。

一方、協会が掲げる各種指標は、過去の実績と比較して低めに設定されている指標が見受けられる。今後、目標を設定する際は、コロナが5類に移行されたことも踏まえて、適切な数値となるよう努めるとともに、自律した団体運営の確立に向けて取組を進めていただきたい。

なお、管理運営を受託している国際交流会館は、京都市の「持続可能な施設運営に向けた保有量の最適化方針」（令和4年3月）において、施設のあり方を検討していくことが示されている。引き続き、他施設との連携強化や機能の融合など、従来のかげに捉われない施策の展開・充実を期待したい。